

オオタカ Northern Goshawk

タカの王者オオタカは、ハイタカ属の中で最も大きく、翼を広げると130cmもあるところから「大きいタカ（大鷹）」、または、その背・翼の上面の青みのある色合いから「あおたか（蒼鷹）」と呼ばれるようになりました。学名の *Accipiter gentilis* は、「ハイタカ属の高貴なタカ」の意であり、まさに適切な命名と言えましょう。

英名の“Goshawk”は、このままでは何の意味もありませんが、語源は Goose Hawk、即ち「Gooseを捕るタカ」というほどの意味のものが、次第に発音に変化が生じて Gooshawk - Goshawk となったものと思われます。なお、頭に Northern（北方の）をつけて、“Northern Goshawk”とすることもありますが、一般的には省略して使われます。

ハイタカ属のタカは精悍で、最もタカらしいタカといわれ、小回りの利く巧みな飛翔と激しい攻撃的な性格を持っています。餌はキジやヤマドリのようなかなり大型の鳥類をはじめ、スズメ、ムクドリなどの小型なものにも至ります。

この大空の王者オオタカの保護運動を尻目に、密猟をする不心得の者が後を絶たないのは嘆かわしいことです。われわれの力の結集で、断固として守っていきましょう。

大宮のハクトウワシ